

実践事例2 単元の後半で、習得した知識を活用する学習問題Ⅱづくり

授業の実際 第6学年 「町人の文化と新しく生まれた学問」（第5時／全6時間）

本時の目標

学習問題Ⅰのまとめを行い、「文化・蘭学・国学」の3つの分野を比較し、自分が一番すごいと考える分野について理由を明確にして表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）

本時の授業の様子

※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、授業改善の手立て(□)
<p>1 江戸時代の文化や学問と、それらに関する人物を振り返る。〈学級全体〉</p>	<p>○前時までに学習した人物を確認し、本時のめあてにつなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で人物の肖像を提示した。 ・調べる視点に沿って、「誰か?」や「何をしたのか?（調べて分かったこと）」などを問うた。 ・江戸時代以前の人物を混ぜることで、他の時代との違いも問い返しながらか確認した。 <p>○クイズに答えたこと、「調べる」活動の頑張りを称賛する中で、学習問題Ⅰのまとめができそうかどうかを問い、本時のめあてへとつなげた。</p>

本時のめあて 江戸時代に生まれた文化や学問を振り返ろう。

<p>2 学習問題Ⅰについて、江戸時代の文化や学問の特徴をまとめる。〈学級全体・個人〉</p>	<p>○本単元で学習した5人の人物について、業績と特徴を問い、児童の発言を基に、学級全体で表としてまとめた。[比較する思考を促す板書]</p> <p>○調べたことを色別に「文化・蘭学・国学」の3分野で大別した。</p> <p>○要点をおさえて自分の考えを表現する力を育成するために、個人の活動として、江戸時代の文化や学問の特徴を総合的にまとめさせた。</p> <p>○板書やワークシート、掲示物を参考にさせながら、板書の言葉を使ってまとめるように指示を出した。</p>
---	--

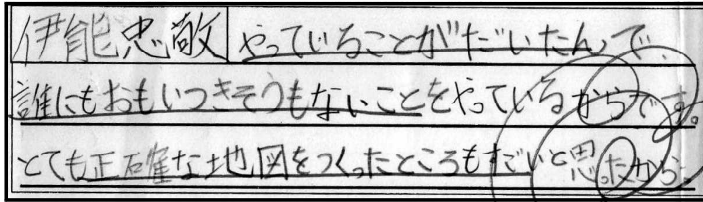
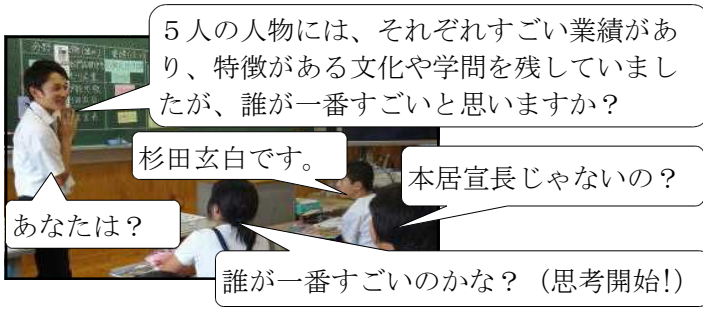
5人の人物について業績や特徴をまとめた板書



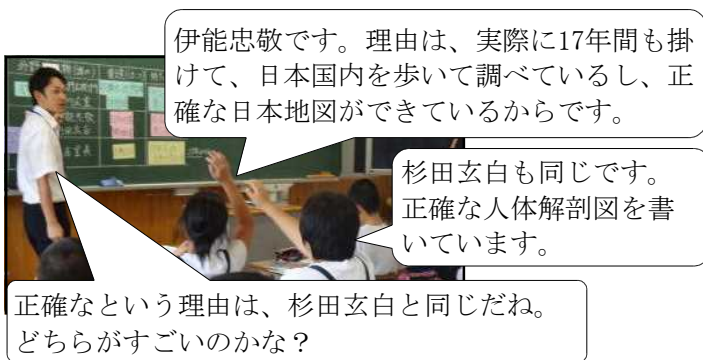
道松門左衛門、歌川広重らの江戸時代の文化は、町人が主役となり、楽しめる歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵が人気を集め、江戸時代の学問は伊能忠敬、杉田玄白、本居宣長のヨーロッパの新しい知識や日本古来の考え方の蘭学、国学を学んだ。これらは当時や後からなど、日本や世界に大きないきりを与えた。

児童がまとめたワークシートの記述

<p>3 「文化・蘭学・国学」について、どの分野がすごいかを考える。〈個人・学級全体〉</p> <p>①自分のお勧めの人物を1人決める。</p>	<p>○「答えさせるための問い」として、まず、「誰が一番すごいと思ったか?」を問い掛けることで、学んだ複数の情報を関連付けて説明させる活動への意欲付けとした。</p>
--	---



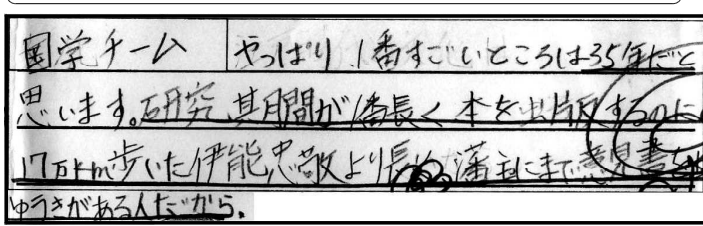
児童が記述したワークシート



・お勧めの分野を1つ決める。



一番すごいと思う理由には共通点がありそうだね。どれが一番すごいのかは、文化、蘭学、国学の中で考えると比べやすいね。自分の考えをまとめて、理由を書いてみよう。



児童が記述したワークシート

4 学習問題Ⅱを設定する。 (学級全体)

○児童が興味をもって学習に取り組めるよう、初めは深く考えさせず、「どの人物が一番すごいか」を気軽に指名して答えさせた。その後、一番すごいと考える人物を挙手させ、その人物を選んだ理由をワークシートに記述させた。

○選んだ理由を発表させる際、理由に対して教師が揺さ振りを掛けることで、児童から多様な考えを引き出した。

[教師の揺さ振りの発問]

- ・努力や苦勞の年数だけで、決めていいのかな？
- ・AさんとBさんは、同じ理由だけど違う人をすごいと考えたんだね。では、どちらがすごいのかな？ など

○一番すごいと思う人物からその理由を考えさせ、一番すごいと考える分野に段階的に考えさせることで、児童の視野を広げさせ、江戸時代の文化や学問が生まれた背景や意味について多面的、総合的に考えさせるようにした。

○意図的に異なる意見の児童に発表させ、選択が多岐にわたっていることを確認し、選択肢を「文化・蘭学・国学」の3つに絞ることで、さらに複数の情報を関連付けて考えさせ、ワークシートに記述させた。 【評価】

【努力を要すると判断した児童への支援】

自分のこれまでのワークシートや板書に目を向けさせ、すごいと思う分野を選ばせ、そう思う理由を問い掛けることで考えさせ、記述させた。

○それぞれの分野を選んだ理由から、比較する視点として以下の3点に整理し、3つの視点を使って比較することができることに気付かせた。

- ・誰に影響を与えたか (影響の大きさ)
- ・人物の努力や苦勞
- ・現在への影響 (影響力の広さ)

○児童がそれぞれの理由を比較し始めたところで、再度、どれが一番すごい分野かを問うことで、もっと調べたい、比べて考え直したいという発言を基に、児童の言葉を用いて学習問題Ⅱをつくった。

④ 江戸時代の文化・学問を振り返ろう。

分野	人物(誰が)	業績(したと)	特ちょう
文化	松門左衛門 次川広重	歌舞伎形浄瑠璃 浮世絵	町人が「主役」で楽しむ文化 現在も名作 多くの人に愛された。ゴッホもね
蘭学	伊能忠敬 杉田玄白	日本地図 解体新書	ヨーロッパの新しい知識 日本中を17年かけて74万km歩いた 今の日本の医学につながっている
学問	本居宣長	古事記伝	日本人の古来の考え方 35年かけて、幕府を倒す流れ

3つの視点

視点
誰に影響を与えたか
努力や苦労
その後与えた影響

⑤ 江戸時代のNo.1の分野を視点を使って考えよう。

児童と共につくった学習問題Ⅱ

本時の最終的な板書 ○は、3つの視点、…は、視点が整理された理由、□は、児童と共につくった学習問題Ⅱ

児童と共につくった学習問題Ⅱ 「江戸時代のNo.1の分野を視点を使って考えよう。」

5 本時の振り返りと次時の見通しをもつ。
(学級全体)

○次時の活動に見通しがもてるように、学習問題Ⅱを次時のめあてにしてにして、討論会を行うことを決めた。

本時の成果と課題 ○…成果、●…課題

- 学習問題Ⅰ「江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか」をまとめる際に、調べて分かったことを表にして板書したことで、児童がそれぞれの人物や分野を比較する際に、板書を見ながら考えている児童の姿があり、視覚的に比較できる手立てとなった。
- 「つかむ」過程において、児童と共に学習問題Ⅰをつくり学習計画を立てていたため、本時でも児童の意欲や思考が継続していた。また、「調べる」過程において、毎時間のまとめを短文で表現させていたため、学習問題Ⅰのまとめに時間が掛からずに済んだ。
- 教師が「5人の中で誰が一番すごいと思うか。」と問い掛けたことで、児童が学習内容を見直し始め、比較して考え始めている姿が見られた。児童にとって、習得した知識を活用して考えることで、学びの確認と学び直しの機会となり、知識の定着にも効果的であった。
- 児童が混乱しない言葉選びが必要だった。例えば、学習問題Ⅱをつくる際に、「すごい」「貢献する」「推薦する(お勧め)」などで迷ってしまったことが考えられる。また、児童の理由を発表させ、話し合う際に、「多くの人に影響を与えたというけれど、どのくらいの人なのか？」や「この人がいなかったらどうなっていたんだろうね。」などと比較する視点に迫る問い返しを行うことで、比較する視点の言葉を児童に共通理解させていく必要があった。